

從軍行

夏目漱石

青空文庫

一

吾に讎あり、
朦朧吼ゆる、

讎はゆるすな、
男兒の意氣。

吾に讎あり、
貔貅群がる、

讎は逃すな、
勇士の膽。

色は濃き血か、
扶桑の旗は、

讎を照さず、
殺氣こめて。

二

天子の命ぞ、吾讎撃つは、

臣子の分ぞ、遠く赴く。

百里を行けど、敢て歸らず、

千里二千里、勝つことを期す。

粲たる七斗は、御空のあなた、

傲る吾讎、北方にあり。

三

天に誓へば、岩をも透す、

聞くや三尺、鞘走る音。

寒光熱して、吹くは碧血、

骨を掠めて、憂として鳴る。

折れぬ此太刀、讎を斬る太刀、

のり飲む太刀か、血に渴く太刀。

四

空を拍つ浪、浪消す烟、

腥さき世に、あるは幻影^{まぼろし}。

さと閃めくは、罪の稻妻、

暗く揺くは、呪ひの信旗。
 深し死の影、我を包みて、
 寒し血の雨、我に濺ぐ。

五

殷たる砲聲、神代に響きて、

萬古の雪を、今捲き落す。

鬼とも見えて、焰吐くべく、

劍に倚りて、つるぎ皆裂けば、まなじり

胡山のふゞき、黒き方より、

鉄騎十萬、※として来る。

六

見よ兵等、つはものわれの心は、

猛き心ぞ、ひづめ蹄を薙ぎて。

聞けや殿原、いのちこれの命は、

棄てぬ命ぞ、たま彈丸を潜りて。

天上天下、敵あらばあれ、

敵ある方に、ものゝふ向ふ武士。

七

戰やまん、吾武揚らん、

傲る吾讎、茲に亡びん。

東海日出で、高く昇らん、

天下明か、春風吹かん。

瑞穂の國に、瑞穂の國を、

守る神あり、八百萬神。

——明治三十七年五月十日『帝國文學』——

青空文庫情報

底本：「漱石全集 第十二巻 初期の文章及詩歌俳句」 岩波書店

1967（昭和42）年3月30日発行

初出：「帝国文学」

1904（明治37）年5月10日

入力：フクポー

校正：きゅうり

2019年12月27日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://w>

www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

從軍行

夏目漱石

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>